

ともに築く元気なまち 二戸市を目指して

はじめに

二戸市は、平成18年1月1日に旧二戸市と旧浄法寺町の合併により、ブナの原生林が茂り、希少な

動植物が多く生息する稲庭岳、日本一と言われるヒメボタルの生息地である折爪岳、開山以来この地域の信仰の中心であり瀬戸内寂聴さんが住職を務めた天台寺、豊臣秀吉の天下統一の最後の戦いの地となった国指定史跡・九戸城跡など、より魅力ある自然や歴史を持つ新しい二戸市として誕生しました。

岩手県内陸の北端部に位置し、奥羽山脈と北上高地の間を流れる馬淵川と、その支流である安比川に沿って町並みが続き、古くは奥州街道の宿場町として栄えてきましたが、近年は東北新幹線二戸駅をはじめとした高速交通網の整備

により、岩手県北部、青森県南部、秋田県北東部を結ぶ交通の結節点として、人やモノ、情報の交流拠点となっています。

また、市の北側は青森県と接しており、歴史的にも経済的にも八戸圏域とのつながりが深く、最近ではドクターヘリの県境を越えた運航など、医療・福祉の分野での結びつきも深くなっています。

産業では、農林畜産業が盛んで、プロイラーや葉たばこは、国内有数の生産量を誇っています。近年は、これらの農産物に加え、寒暖差の大きい気候を生かした果樹生産も盛んになっており、さくらんぼの「夏恋」、りんごの「冬恋」、ブルーベリーの「カシオペアブルー」など、首都圏でも高い評価を得ているブランド果物も生産されています。

地域の「宝」とともに

本市では、平成4年から住民自らが地域にある自然、風習、技などの「宝」を発掘し、それをまちづくり結び付ける「楽しく美しいまちづくり」により、地域が持つ魅力を守り、伝え、生かす取り組みを進めており、平成23年には次のステップに向けた集大成として「全国エコツーリズム大会in岩手にのへ」を開催し、本市の魅力を全国に向けて発信しました。

このような、各地域での取り組みに加え市全体の魅力を高めるために、平成25年からは「にのへブランド海外発信事業」により海外での情報発信にも取り組んでいます。

この事業は、本市で生産される地酒と漆を中心に、ニューヨークで情報発信のためのセミナーやレ

セプションを開催するものです。特に漆は本市で生産される「浄法寺漆」が国内生産量の約7割を占めており、ほかにはないこの地域固有の特色ある資源として、また、まちづくりのツールとして無限の可能性を有しています。

漆は漆器などの塗料として知られていますが、古くから接着剤として使われていました。昭和39年に行われた平泉・中尊寺金色堂の修復では、金箔を貼るために浄法



首都圏でも高い評価を得ているさくらんぼの「夏恋」



地域固有の特色ある資源「浄法寺漆」を積極的にPR

寺漆が使われ、現在も東照宮をはじめとした日光二社一寺の修復に使われるなど、文化財建造物の修復には欠かせない材料となっています。また、英語の「*dan*」が漆器を表すように、海外においても日本を代表する工芸品として漆器の評価は高いものがあります。幸いにも本市は、原料となる漆から製品である漆器までを地域内で生産できることから、この漆を人や地域をつなぐ接着剤として使い、多くの人たちとのつながりを生み出しながら、本市の魅力を国内外に発信し、まちづくりを進めていきたいと思っています。

ともに築く元気なまち 二戸

二戸市総合計画では市の将来像を「活力と安心、歴史文化の薫る拠点都市」と掲げ、産業の振興をはじめさまざまな取り組みを進めてまいりましたが、近年は若年層の人口流出や少子高齢化により、産業の衰退や地域活動の低迷など、本市を取り巻く状況は非常に厳しいものがあります。

しかし、本市には、豊臣秀吉の天下統一に最後まで抗う「九戸政実」や江戸で学び帰郷後に本格的な文武の教育のため兵聖閣演武場を開いた「相馬大佐」など、この地域の気風を形作った先人がいます。幕末から明治時代に掛けては、その先人の精神を受け継ぎ、人材育成と地域振興を目指して、東北の松下村塾とつたわれた「会輔舎」が結社されるなど、新たな時代に向け積極的に地域づくりへ取り組んでいこうという気質は、時代を超えて人々の心に脈々と流れています。

ここに暮らす人々が受け継いできたこの気質は、平成25年12月に急逝した小保内前市長が掲げた

「小さなまちの大きな挑戦」というキャッチフレーズに代表されるように、厳しい時代を乗り越えるための大きなエネルギーとなります。

本市には都市の持つ華やかさや便利さはないのかもしれませんが、快適で利便性のよい暮らしを実現するための基盤整備は、お金と時間をかければ可能ですが、それ

プロフィール

- ◆ 面積 420・31km²
- ◆ 人口 2万9037人
- ◆ 世帯数 1万1824世帯

〔将来都市像〕 活力と安心、歴史文化の薫る拠点都市

〔まちの特徴〕 岩手県内陸北部に位置し、豊かな自然に恵まれ歴史や伝説が数多く残るまち。漆、プロイラー、葉たばこは日本有数の生産量を誇る

〔市町村合併〕 平成18年1月1日、二戸市、浄法寺町による新設合併

〔特産品〕 りんご、雑穀、あゆ、南部



二戸市長
藤原 淳



せんべい、清酒南部美人、浄法寺塗（漆器）、山ぶどうワイン、どぶろく

〔観光〕 折爪・馬仙峡県立自然公園、国指定史跡・九戸城跡、天台寺、稲庭岳、座敷わらし伝説の残る金田一温泉郷

〔イベント〕 二戸まつり（9月上旬）、浄法寺まつり（9月中旬）、トリコロールフェスタinなやーと（10月下旬）、天台寺例大祭（5月、10月）

を生かすのはそこに暮らす人たちです。

四季折々に自然と対峙し、畏怖の念を抱き、その恵みを享受しながら培われた伝統文化と、それを後世に紡ぐ人々、このような本市が持つ潜在的な力を引き出しながら、市民の皆さんとともに、魅力的な、そして誰もが元気で輝けるまちづくりを進めてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

11万市民が一つの家族のような あったかいまち・ふじみ野

合併からもうすぐ10年

ふじみ野市は、平成17年に上福岡市と大井町が対等合併し、平成27年10月に誕生10周年を迎えます。

当地域は、都心から30km圏内と都市近郊に位置しながら新河岸川や雑木林など豊かな自然が残り、また、交通の利便を生かした商品流通業や首都近郊農業などが盛んなまちとして発展してきました。こうした地域の特性を生かしたまちづくりと、それぞれの市・町で築き上げてきた地域コミュニティを大切にしながら、「ふじみ野市」としての新たなまちづくりを一步着実に進めてきました。

合併当時約10万3000人であった人口は11万人を超え、特に現役世代が増加傾向にあります。一つ一つ丁寧に、時には大胆に市

政運営を積み重ねた成果がこの数字に現れていると思っています。

常に市民目線の行政運営を心掛け、市民の生命と財産を守ること、はもちろんのこと、市民がいつまでも元気で健やかに過ごせるまちづくりに取り組んでいます。

「災害に強いまちづくり」を目指して

東日本大震災を教訓にし、起り得るさまざまな事態を想定した防災の取り組みに力を入れています。

主な取り組みとして、全市民を対象とした総合防災訓練を毎年実施しています。初めて実施した平成24年度の訓練では、どこに避難したらよいのか、避難路をどこに設定したらよいのかなどを図上で検証する訓練のほか、市民主体に

よる避難所開設や避難所運営の訓練、避難路の危険箇所などの確認など、総勢約7000人が参加する訓練となりました。平成26年11月に行う3回目の訓練では、「地区対策本部」と「地域防災拠点」の連携などに重点をおいて実施します。

このほかにも、自主防災組織の組織率の向上や防災備蓄品の充実、防災行政無線のデジタル化、市役所と市内52カ所の公共施設を結ぶIP電話の配備などを実施し、いつ発生してもおかしくない災害に備え、「自助・共助・公助」の体制を整えるべく取り組んでいます。

子どもたちの笑顔を
増やしたい

「子どもたちの笑顔なしに、ふじみ野市の未来はない」との考えの下、子ども優先のまちづくりを進

めています。

教育環境の整備では、小・中学校の大規模改造工事を進め、市内全小・中学校の普通教室にはエアコンの設置が完了するなど、快適な教育環境の整備に努めています。

また、青少年が自ら育つ環境づくりとして、放課後子ども教室を開設したほか、小・中学校の夏季休業中には総合的な学力向上策の一つとしてふじみ野寺子屋を実施しています。



子ども優先のまちづくり（市長の学校訪問）

元気・健康の好循環

市民の皆さまが病気になるなければ、国民健康保険などの医療費の軽減が図られ、そこで生まれた財源は新たな健康づくり、生きがいづくりのために活用できます。

そのため、「元気・健康の好循環」として、文化・スポーツの振興による心と体の健康づくり、介護予防の強化、歯科口腔保健の推進など65歳を過ぎても病気を寄せ付けず、医療や介護のお世話にならずに元気に過ごせる環境づくりを展開しています。



平成25年度に実施した「オールふじみ野」未来政策会議

市民目線による行政運営

合併後のふじみ野市は、人件費の抑制と事務事業の見直しを進めた結果、経常収支比率は98%から89.2%にまで改善しました。しかし、改革の手を緩めることなく、改革の受益者は市民であることを念頭に、さらなる市民サービスの充実に向け、市民目線の行財政改革に力を入れ、必要な政策や事業についてスピード感と実行力を持って取り組んでいます。

市民の声を市政に生かすためのタウンミーティングは78回を数え、延べ3300人の市民の皆さまと直接対話を行いました。さらに、平成22年度からは公開事業評価を実施し、平成25年度には新たな試みとなる「オールふじみ野」未来政策会議を実施し、未来にとって価値ある施策は何かという視点で公開の会議を開催しました。

この会議を通じて得られた「行政パートナーたる市民」の輪をさらに発展的に広げ、地域課題などを市民力で解決していく「公民連携システム」の構築を図るため、平成26年度は、公民館の適正な受益者負担を検討テーマとし、市民同士による

公開討論会を通じて、ふじみ野市の未来について検討していきます。

将来を見据えて

現在、市役所は本庁舎耐震補強工事と増築棟の工事を行っています。新築などさまざまな選択もありますが、財政負担の軽減を考慮した中で、市議会や市民検討会議の提言を踏まえて、あえてこ

の道を選びました。将来を見据えた事業の推進は今を生きる私たちの責務です。限られた財源を有効に使い、持続可能なまち、市民一人一人が確かな未来に向けて安心して住み続けられるまち、そして、11万市民が一つの家族のようなあったかいまちを目指して、ふじみ野市のさらなる発展のために市民とともに歩んでいきます。

プロフィール

- ◆ 面積 14・67km²
- ◆ 人口 11万643人
- ◆ 世帯数 4万8059世帯

〔将来都市像〕「健康・安心・生きがい都市」

〔まちの特徴〕江戸時代から昭和初期に川越と江戸を結ぶ舟運で栄えた新河岸川や武蔵野の面影を残す雑木林など都心から30km圏内にありながら豊かな自然が残るまち

〔市町村合併〕平成17年10月1日、上福岡市と大井町が合併



ふじみ野市長
高畑 博



〔観光〕上福岡歴史民俗資料館、ふじみ野市立大井郷土資料館、ふじみ野市立福岡河岸記念館、福岡中央公園、西ノ原中央公園

〔イベント〕上福岡七夕まつり、おおい祭り、ふじみ野市産業まつり、新春ロードレース大会、入間東部地区駅伝競走大会

※面積は国土地理院「全国都府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

新しい都市力創造のまち「香芝市」 — 変革への透視図 —

はじめに

奈良県西部、大阪との県境に位置する香芝市は、万葉集にも登場する秀峰「二上山」の裾野に広がり、悠久の歴史と豊かな自然にはぐくまれ発展してきたまちです。



雄岳と雌岳が寄り添うようにそびえる「二上山」

西名阪自動車道が市内を東西に走り、鉄道においても市内を縦横に走る近鉄線、ＪＲ線による８つの駅を有し、大阪市内へは最短２２分、名古屋、東京への移動なども利便性は抜群です。

観光スポットは、白い岩肌が美しい「どんづる峯（県天然記念物）」と、雄大な「二上山」があります。どちらも春から秋に掛けてハイキングに多くの方が訪れます。また天皇陵や重要な文化財も数多く点在しています。

この都市圏隣接の立地と交通網の充実、さらに生駒山系に抱かれた自然環境による住みやすさ、暮らしやすさが人々を引き付け、人口が増加し続けています。本年５月に「日本創成会議」が公表した２０４０年の若年女性人口もほぼ横ばいとされるなど、子どもや子

育て世代が多い人口構造で、女性の地域就労や社会進出ニーズも高いまちです。まさに成長し続ける類いまれなまちといえます。従って、ほかの市町村とは一線を画し、従来にない発想と創造力で魅力のある新しい都市力を備えた、持続可能なまちづくりが必要です。

子育てならかしば

わが国では、人口の減少や労働力の低下が予測される中で、「女性が働く環境」を整備すれば、約８００万人の労働力となり、キャリアアップの仕組みが確立されれば、「女性マーケット」も創出され、新商品やサービス産業を生み出すことは、想像にたやすいと考えられます。それには、仕事と子育ての両立支援策を力強く推進することが行政に求められており、本市

における女性管理職比率の向上や市政を支え、ご協力をいただいている自治会や各協議会などの組織においても、女性参加による活動に全力を挙げて推進しているところです。

私が市長に就任した平成２４年度には、市職員採用の面接官に初めて女性を配置しました。また女性管理職の登用についても積極的に進めています。さらに子育て支援室の創設、こども園への取り組みや中学校給食導入に向けた具体的な行動に着手しているところです。

今後は、職場復帰が容易になる仕組みづくり、キャリアとして自立できる環境をつくることが急務と考えています。

産業振興・企業立地から地域振興へ

一方で、産業振興・企業立地の推進が必要です。本市は今まで、「住宅都市」として発展してきましたが、今後は、それに加えて「働く

場「消費する場」投資をする場」という都市的要素を取り入れることによってまちの魅力を高め、新しくブランディングすることが必要です。

本市の持つ交通環境と地理的優位性を生かして、既存の企業の活性化、新規創業の推進、企業の誘致など、できることはどんどん私が先頭に立って、積極的に取り組んでいきたいと考えています。本年度には「香芝産業展」の開催、企業への新たな補助メニューや支援策を創設しました。中でも香芝市商工会と連携した「香芝市プレミアム商品券」は1億円の販売額に対して2億2700万円の応募があり、好評のうちに終了いたしました。

これらを着実に推進することにより、まずは地域産業の活性化に向けての基盤を固め、そこから地域全体の振興に結びつけたいと考えています。

誰もが住みよいまちへ

誰もが住み慣れたまちで、健康で生きがいをもって暮らすことができる社会の実現に向け、福祉や医療の充実、健康づくりの普及はもちろんですが、東日本大震災や

紀伊半島大水害を踏まえた災害対策、特に災害弱者といわれる高齢者や女性に配慮した防災対策を構築しています。

また、平成24年10月より新しいかたちの公共交通として、病院やスーパー、駅や金融機関など市内の主要な場所へ移動可能な、乗り合いを特徴とする「デマンド交通」（一人運賃200円）の実証運行を行っています。市面積24・23km²というわがまちならではの特徴を生かしたコンパクトな手法を取り入れ、多くの市民から好評をいただいているところです。「健康寿命を



利用者の多様な需要に応える「デマンド交通」

延ばすこと」「自立すること」を目標に、高齢者や障がいのある方に限らず、誰もが生き生きと暮らし、気軽に外出することができるような元気なまちづくりをこれからも力強く推進してまいります。

市民協働のまちづくり

平成25年度より、公益的な市民活動を行っている団体や公益性のある事業に対する支援の一環として、事業に要する経費の一部を補助する制度を新たに創設しました。

これは、硬直化しつつある現在の補助制度の改善と市民活動の一層の活性化を目的としたものであり、公共性や実効性とともに市民活動の要素の強い事業などを客観的に審査し、高い透明性の中で補助を行うものです。本年度は応募いただいた中から20件の事業を採用し、市の歴史や文化を学び郷土愛をはぐくむ事業や、男女共同参画社会の推進事業などを、行政と市民が一体となつて進めております。

プロフィール

◆面積 24・23 km²

◆人口 7万8205人

◆世帯数 2万9499世帯

〔将来都市像〕笑顔と元気!! 住むならかしば

〔まちの特徴〕至便な交通アクセス、豊かな自然環境などにより、大阪都市圏のベッドタウンとして成長



香芝市長
吉田弘明



〔特産品〕靴下、かしば香るみそ、米粉
〔観光〕どんづる峯、平野塚穴山古墳、狐井城山古墳、尼寺廃寺跡、大坂山口神社、鹿島神社
〔イベント〕岳のぼり、香芝ウォーク、市選権大会、冬彩、香芝ふれあいフェスタ、公民館まつり、市美術展覧会、香芝産業展

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「環日本海オアシス都市」の実現を目指して

はじめに

境港市は、鳥取県の北西部、国立公園大山の裾野に延びる弓ヶ浜半島の北端に位置し、白砂青松の続く弓ヶ浜は「日本の渚百選」に選ばれています。また、三方を海に開け、島根半島が天然の防波堤の役割を果たす自然条件に恵まれ、山陰地方の海の要衝として古くから港を中心に発展してきました。人口・面積ともに非常にコンパクトなまちですが、市域には、「特定第三種漁港」「日本海側拠点港」「国際空港」という、大きな社会基盤を併せ持っているまちです。

さかなのまち

境漁港は、全国で13港の特定第三種漁港に指定（昭和48年）されている西日本最大の漁業基地です。

アジ、サバ、イワシの漁獲を中心とした、まき網漁業が盛んで平成25年も全国第3位の水揚げ量を誇っています。平成4年から8年までの5年間は水揚げ量全国第1位を連続して記録するなど、かつては60万tを超える年もあった水揚げも近年は水産資源の減少などにより10万t台で推移しており、水産物の高付加価値化を図ることがこれからの課題となっています。このような中、水揚げ量日本一の「生のクロマグロ」と「カニ（ベニズワイガニを含む）」のブランド化を図る取り組みが進められているほか、新たなブランドとして「境港サーモン」が誕生しました。これは境港市沖の美保湾で養殖された銀鮭のブランド名で、西日本での生産拠点として、平成25年から本格的に事業化が始まりました。生産・

加工・販売を一貫して手掛ける6次産業化の事業計画も農林水産省から認定され、この事業の成功が地域の雇用増や地域の活性化につながるものと期待されています。

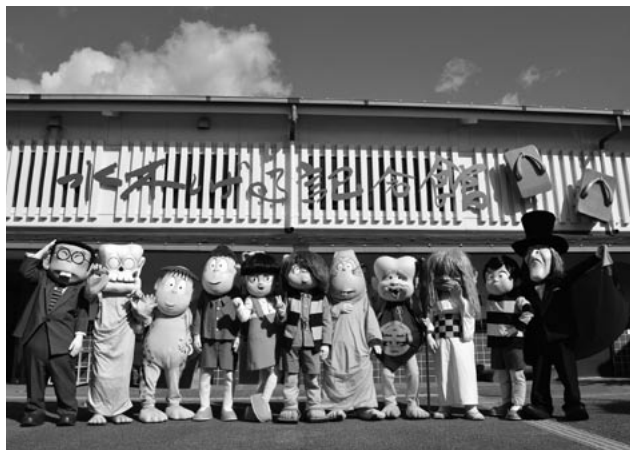
妖怪に会えるまち

本市は妖怪漫画「ゲゲゲの鬼太郎」で有名な水木しげる氏の出身地であり、氏が描いた妖怪のブロンズ像が153体並ぶ「水木しげるロード」は平成25年、誕生20周年を迎えました。

計画した当初は、「商店街には空き店舗も多く、閑散とした通りにお化けを並べたら、ますます寂れてしまう」との声もありましたが、妖怪を題材にしたユニーク性やすべてのブロンズ像を触って親しめるようにしたこと、さらにはドラマ「ゲゲゲの

女房」が全国放送されたことなどから年間入込客数も平成22年から平成25年まで4年連続で270万人を超える全国に知られる観光地に成長しました。

官民が協力して「妖怪」を活用した「境港妖怪ジャズフェスティバル」「ゲゲゲの鬼太郎ゲタ飛ばし大会」などさまざまなイベントの開催や「妖怪」が持つ素材としての魅力・ストーリー性・神秘性などを引き



妖怪の世界に誘う「水木しげる記念館」

©水木プロ

出す絶え間ない取り組みも展開され、「水木しげるロードならでは」というオンリーワンの観光地を目指しています。

また、住民の生活道として整備されていた道路がベースとなっている現在のロードを散策しながらこれまで以上に安らぎ、癒やしの空間を楽しんでいただける、歩行者を優しく迎え入れる通りとなるよう地域住民や関係者、有識者などを交えてリニューアルに向けて検討を進めているところです。

北東アジアに向けた ゲートウェー(玄関口)への 取り組み

「港湾都市 境港市」も本市のもう一つの顔です。明治29年に開港外貿易港に指定を受けた「境港」は、昭和26年の重要港湾指定などを経て、平成16年には山陰初の国際コンテナターミナルが供用開始となり、物流拠点としての機能が大きく充実しました。さらに平成21年には悲願であった環日本海諸国を結ぶ国際定期フェリーが就航しました。このフェリーは韓国・東海とロシア・ウラジオストクを週1往復し、日・韓・露を結ぶ唯一の

定期航路として現在まで安定運航が続けられています。

境港の定期航路は中国・韓国航路を合わせ週7便で、それぞれハブ港の上海、釜山を経由して世界各地とも結ばれており、平成23年には日本海側拠点港に選定されるなど、「人」「モノ」が交流する北東アジアに向けたゲートウェーとして、その地歩を固めつつあります。

また、近年多くのクルーズ客船が寄港するようになり、本年10月にはこれまでに最大となる13万t級の「マリナ・オブ・ザ・シーズ」の寄港も予定されています。このようなことを背景に平成25年から国直轄による国際物流ターミナル整備事業が本格的に着手されると



日・韓・露を結ぶ「海の道」DBSクルーズフェリー

ともに、貨客船ターミナル整備の早期実現へ官民が一体となって取り組んでいます。

結びに

本市では、漁港、港湾、空港といった社会基盤を中海・宍道湖・大山圏域の財産として最大限に活用し、地域の活性化に結びつけるとともに、市民の暮らしに根ざした基本的な施策を推進することに

より、誰もが、快適で心豊かに、そして安全で安心して暮らせるまちの実現を目指しています。人やモノが寄り集まり、砂漠の中の「オアシス」のような活気あふれるまち、そのイメージとして「環日本海オアシス都市」を標榜しており、そのためには、市民と行政が共に知恵を出し合い、手を携える「協働のまちづくり」の取り組みをさらに進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 28・82 km²
- ◆ 人口 3万5649人
- ◆ 世帯数 1万5190世帯

〔将来都市像〕環日本海オアシス都市
「風格のある小さくてもキラリと光るまち」

〔まちの特徴〕「特定第三種漁港」「日本海側拠点港」「国際空港」を併せ持つ「さかなと鬼太郎のまち」

〔特産品〕クロマグロ、ベニズワイガニ、松葉ガニ、ノドグロ、ハタハタ、



境港市長
中村勝治



伯州綿、弓浜緋
〔観光〕水木しげるロード、水木しげる記念館、海とくらしの史料館、夢みなとタワー、江島大橋(ベタ踏み坂)
〔イベント〕みなと祭、境港水産まつり、カニ感謝祭、境港まぐろ感謝祭、境港妖怪検定、妖怪そっくりコンテスト、鬼太郎カップ境港駅伝、航空祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。